

人吉・球磨 まるごと日本遺産



人吉球磨の日本遺産ストーリー

人吉球磨の領主相良氏は、急峻な九州山地に囲まれた地の利を生かして外敵の侵入を拒み、日本史上稀な「相良700年」と称される長きにわたる統治を行った。

その中で領主から民衆までが一体となったまちづくりの精神が形成され、社寺や仏像群、神楽等とともに信仰し、楽しみ、守る文化が育まれた。同時に進取の精神をもってしたたかに外来の文化を吸収し、独自の食文化や遊戯、交通網が整えられた。

保守と進取、双方の精神から昇華された文化の証が集中して現存している地域は他になく、日本文化の縮図を今に見ることができる地域であり、司馬遼太郎はこの地を「日本でもっとも豊かな隠れ里」と記している。



ストーリーを構成する文化財群

相良700年の文化財群。これら人吉球磨を代表する41の文化財のほかに、中世から護られてきた古社寺や仏像など仏教美術の文化財が数多く残されています。

球磨村

このせすあよしじんじや 神瀬住吉神社	航海の神として、球磨川を行き来する藩主や船頭たちの信仰を集めてきた神社。
-----------------------	--------------------------------------

山江村

しろやまかんのんどう 城山観音堂の じゅういちめんかんのんぼさつぞう 十一面観音菩薩像	戦国期の相良氏当主が造らせた仏像で、周辺住民が代々大切にしていた仏像。
たかてらいん 高寺院	相良氏が滅ぼした矢瀬氏による草創ながら、代々の相良氏が手厚く保護した寺院。
やまだだいうじんじや 山田大王神社	相良氏が、滅ぼした平川氏の怨霊鎮魂のために建立した神社。

五木村

ひがしまたあそじんじや 東俣阿蘇神社	江戸中期、五木村の民衆との結びつきを重視する藩主が、名代による代参を続けた神社。
-----------------------	--

相良村

あまみやじんじや 雨宮神社	雨乞いに霊験があるとして、領主・民衆から信仰を集めた神社。戦国期の雨乞いのエピソードが特に有名。
としますがわらじんじや 十島菅原神社	この地域で最大の天神様として、領主から民衆まで信仰を集めた神社。
いざおくまのざじんじや 井沢熊野座神社	16代相良長唯（義滋）により再興された神社。民謡「球磨の六調子」にも歌われるほどの名所として、民衆に親しまれた神社。

錦町

このもとじんぐう 木本神宮	相良氏が滅ぼした平川氏の居城であった岩城跡に、13代相良長毎が祭神を市房山神宮と同体で勧請した神社。
------------------	--



▲山田大王神社



▲十島菅原神社



▲願成寺



▲相良家墓地

人吉市

いのくちはちまんじんじや 井口八幡神社	領主相良氏の「戦の神」として代々保護を受けてきた神社。
ひとよおんせん 人吉温泉	戦国時代の12代相良為統が湯治したという記録が残る人吉球磨で最古の温泉があり、民衆も疲れを癒した。
あおいあそじんじや 青井阿蘇神社とおくんち祭	領主相良氏の保護を受け、江戸時代には人吉藩領内の惣鎮守として藩主・民衆の信仰を集めた神社。秋の例大祭は「おくんち祭」と呼ばれ、多くの人々が参加・見物する郡内の一大行事。
ウンスンカルタ	江戸時代中期に幕府に禁制され廃れた中で、全国で唯一、人吉藩領のみ遊戯法が継承された。現在は人吉市の民間団体が継承する。
おいがみじんじや 老神神社	領主相良氏の氏神として保護され、周辺住民から「老神さん」として親しまれ信仰を集める神社。
ひとよしじょうあと 人吉城跡	球磨郡を統一した相良氏が代々居城とした城。中世以来の山城の一角を石造りの城へと改変し、球磨川とその支流胸川とを天然の堀とする全国でも珍しい「川の城」である。
だいしんじ 大信寺	22代相良頼喬母の菩提寺。この母が帝王切開の末、頼喬を出産し亡くなったと伝わり、後に安産を願う民衆の信仰を集めた。
がんじょうじ さがらけ ぼち 願成寺と相良家墓地	領主相良氏の菩提寺の第一で、江戸時代は郡内の宗教世界を束ねる地位にあった格式高い寺院。裏に代々当主の墓が集められている。
いわやくまのざじんじや 岩屋熊野座神社	領主相良氏による度々の修造が行われた神社。熊野信仰の広がりとともに民衆の信仰を集めた。

あさぎり町

しょうふくじ 勝福寺関連文化財	勝福寺は相良氏入国以前の在地豪族の菩提寺ながら、相良氏による保護を受け続けた寺院。
すえあそしゃかどう 須恵阿蘇釈迦堂	在地豪族の須恵氏が創建し、相良氏代々が保護した。釈迦三尊像が民衆に大切に守られ続けている。
やまのうえはちまんじんじや 山上八幡神社	戦国時代に滅ぼした上村氏を供養するために、安土桃山時代になり相良氏が建立した神社。

多良木町

おうぐうじんじや 王宮神社	多良木地域の鎮守として、相良氏の手厚い保護を受け民衆の信仰を集めた神社。萱葺屋根の楼門は日本最古級。
しょうれんじあみだどう 青蓮寺阿弥陀堂	鎌倉時代以降の多良木相良氏代々の菩提寺で、民衆の信仰を集めた。郡内に残る中世的な景観をしのばせる代表的な場所の一つ。
おおたけじゅうたく 太田家住宅	江戸時代、藩の許可を受け焼酎作りを行っていた民家。焼酎文化の盛行を示す。
たらぎさがらし 多良木相良氏関係史跡	相良氏が鎌倉時代に下向した後、地域開発の拠点であった館跡と開削した灌漑用水などの史跡。
くめはるよりじんじや 久米治頼神社	当主に反乱を起こし滅ぼされた相良治頼とその母を供養するため、戦国時代に建立された神社。
つきぎおだいしどう こうぼうだいしどう 槻木御大師堂の弘法大師像	郡内における民衆の大師信仰の広まりを受け、室町時代前期に相良氏を願主として造られたもの。

湯前町

じょうせんじあみだどう 城泉寺阿弥陀堂	在地豪族久米氏が建立したといわれるが、その後も相良氏や民衆の厚い保護・信仰を受けて、堂舎と本尊、石塔群が中世の景観を今に伝える。
おだいしどう 御大師堂	郡内で領主から民衆まで広まっていた大師信仰を受け、大切に守られてきた大師堂と御大師様。

水上村

しょうぜんいんかんのんどう 生善院観音堂	人吉藩化け猫騒動にちなむ観音堂。市房山神宮参詣時には藩主が立ち寄った。「狛猫」が参拝客を迎える。
いちふさやまじんぐう 市房山神宮	郡内最高峰の市房山を信仰の対象とした神社。郡鎮守であり、歴代の相良氏を始め、民衆も「御嶽さん参り」と呼んでしばしば参詣した。



▲勝福寺



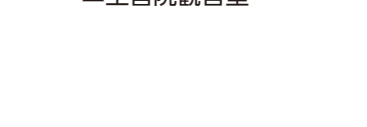
▲槻木御大師堂の弘法大師像



▲王宮神社



▲城泉寺阿弥陀堂



▲御大師堂

▲生善院観音堂